

平成 30 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭2階ユニット

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100279		
法人名	株式会社 三協医科器械		
事業所名	あったかいごグループホーム東安庭2階ユニット		
所在地	岩手県盛岡市東安庭1丁目23-70		
自己評価作成日	平成30年8月4日	評価結果市町村受理日	平成30年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhvu_detail_2017_022_kani-tr=ue&Ji_gyosyoCd=0390100279-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年9月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では「共に和み、共に生きる」を理念とし、利用者様方に寄り添い共に生活することに重点をおいて支援しております。利用者様、ご家族様のご意向をお話する機会を多く持つことにより確認し、可能な限り希望に近づけられるように心がけております。職員の接遇に関しては利用者様が安心して生活が送れるように勉強会・研修会を実施しております。また、協力医療機関、訪問看護ステーションと連携をとり、体調不良などがあつた際でも対応が出来るように体制を整えております。なお、同敷地内には「デイサービス、ヘルパーステーション、サービス付き高齢者向け住宅」が一体になった施設もあり、行事を合同で開催したり、万が一の緊急時でもスタッフの応援体制が整っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は、新興住宅地の中に立地し、設置から5年が経過した建物は明るい雰囲気設備も整っている。「共に和み共に生きる」の理念のとおり、共用のホールでは利用者や利用者へ寄り添う職員の笑い声が絶えない。比較的経験年数の少ない職員が多いが、職員同士のコミュニケーション、利用者への対応も良好で、家族アンケートでも満足度が高い。法人は、事業所単位の自立と職員参加による運営を進めている。リーダーは、接遇・対応行事等向上策、収入・稼働率増加策、支出・経費削減策、業務効率改善策の各項目ごとに、毎月の目標・実績、次月の計画シートを作成し、所属長に報告のうえアドバイスを貰う取り組みを行っている。これにより全職員が意識して業務に取り組み、接遇が改善され、光熱費の支出軽減が図られるという効果が得られている。また、記録用紙の統一を図る、業務を整理し行事や外出の機会を多くする等の業務改善を検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

平成 30 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に和み、共に生きる」を理念に掲げ、利用者様、ご家族様の意向を尊重し、寄り添いながら笑顔で皆が生活できるように取り組んでおります。	職員は、「共に和み共に生きる」の理念を意識しながら日々のケアに当たっている。朝の唱和は行っていないが、業務別のマニュアルの中で、理念を行動の意識づけとするよう示しており、会議等においても理念に基づく行動を指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており定期的に同町内会の保育園が慰問してくれたり夏祭りの行事などで町内会の方々に協力、参加して頂いたりしております。	保育園は概ね3ヵ月ごとの行事の際に訪問があり、地域の方には利用者と一緒に散歩に行く職員が声掛けしたりされたりの関係で、日常的な交流が出来ている。駐車場で開催した今年の夏祭りには、地域の方々150名以上の参加があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3ヵ月毎ですが広報を作成しております。地域にも配布したり、回覧板に挟んでいただいたりとして見ていただきご理解をしていただける様にしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では町内会長、民生委員、ご家族様、包括センター、消防署、警察交番にも参加を呼びかけ運営に関する意見や助言を頂いております。	会議の出席率向上を目標に、委員の賛成を得て開催日の定例化や代理出席等を導入している。会議では、運営状況やヒヤリハット、感染症対策を報告し、質問や意見が出され活発な会議となっている。会議内容は利用者家族にもお知らせしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関して分からない事は疑問点は「事業所指定係」の担当者に質問し助言を頂いております。	市の担当窓口には要介護申請等で直接出向しており、不明の点は相談し丁寧な指導を受けている。市主催の会議には所長が出席し、情報の把握に努めている。市の実地指導の際の指導事項は、速やかに改善している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束適正化に関する指針」のもと勉強会を実施し取り組んでおります。	法人として研修会を開催し、一体となって身体拘束適正化に取り組んでいる。リスクマネジメント委員会を設置し、3ヵ月に1回勉強会を実施している。職員は、管理者による随時の指導を受けながら、不適切な言動に十分気をつけている。玄関は、センサーを設置し昼は施錠はしていない。	

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したりし学んでおります。尚、日頃よりスタッフとコミュニケーションを図り万が一が無いように努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人が選択されている利用者様が入居されている事もあり権利擁護に関心を持ち資料に目を通すなり学習するスタッフもいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設入所が決定した際に契約書、重要事項説明書など必ず説明をさせていただいており、その後も不明な点、お気づきな点などは後日再度時間を設けご説明させて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加された際、面会時の際に意見交換をしたり玄関に意見箱を設置しております。	家族とは、面会訪問時に相談等を受けることが多い。玄関に意見箱を置いているが、最近では入っていたことがない。お花見や母の日の行事での笑顔の写真、防犯訓練や避難訓練の様子等、盛り沢山の「あったかいご通信」を、3ヵ月ごとに家族に送っている。家族からは、外泊時の様子を手紙で教えてくれる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議、年に2回の個別面談を実施しており一人一人機会を設けております。	年2回、職員が作成した半年毎の自己評価シートを基に話し合いを行っている。職員からの意見・提案は処遇に関することが多い。法人は、資格取得の支援や正職員への登用等を積極的に実施している。事業所単位の自立と職員参加による運営に取り組み、ケアの質の向上等の効果を上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回個別面談を実施しその際に自己評価、監督者評価を実施しております。給与に関しては資格取得時に給与アップをしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的にグループ全体の研修会を実施しております。また、認知症実践者研修などに参加したスタッフは施設内での研修に取り組んでおります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、人員に余裕がある際は積極的に参加できるように努めております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ずご本人様とお会いし、状態を確認しております。その際にどのように生活されたいか等ご意向をお聞きするようにしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様にご家族様にもお会いしご意向を確認しております。施設内で生じた出来事等その都度電話連絡し状況を報告しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にご本人様、ご家族様とお会いした際に、ご意向や身体状況を確認し必要な支援の方法を考え提供するように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の状態を確認しながら無理のない範囲での家事等な役割を担っていただき共に生活しております。また、食事を共にすることで暮らしを共にする雰囲気づくりを心がけております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には無理のない範囲で定期的な面会を呼びかけております。また、行事、運営推進会議への参加、協力を案内状やお電話にて呼びかけをしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望時にご家族様と外出して頂いております。また、馴染みであったお店や場所へもスタッフが余裕がある際にはお連れしております。	家族との外出を支援している。1階の利用者は、年に数回外食やドライブに出かけているが、2階の利用者は、介護度や体調の課題もあり、外出は少なくなっている。訪問美容を導入しており、男性の利用者も同じ訪問美容師に整容して貰い、馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様間にてお話が成立すづらい時には仲介し、コミュニケーションが円滑に回るように努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に施設にいらっしゃるかたはおりませんが他施設、病院など移動先との情報連絡は適時におこなっております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際に施設での生活に対するご意向を確認しております。また、お話すことで信頼関係を深めていき、本心を汲み取れるように雰囲気作りを心掛けております。	入居時のアセスメントの他、利用者ごとに担当職員を決め、意向や思いの把握に努めている。共用ホールのカウンターに、生活日誌、排泄等のチェック表、申し送りノート、ヒヤリハット直前の状況を記したドキットとノート、ヒヤリハット報告などを配置し随時記録している。申し送り時に確認し、ケアに役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にご自宅での様子、施設での様子を確認したり、他事業所、医療関係機関と情報交換を行っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の様子や状態をチェック表と生活日誌を活用し記録しております。また、定期的にケースカンファレンスを開催し、職員間での情報の共有を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスを実施しスタッフ間での情報交換、支援方法の見直しなど行っております	介護計画は所長(ケアマネ)が作成している。毎月のカンファレンスで、居室担当の職員や他の職員との情報交換や評価、支援の見直しを行なっている。生活日誌、申し送りノート等も参考に、本人・家族の意向に沿った具体的な計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にきろくしており、情報交換、共有を行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣の協力医療機関や訪問看護ステーションと連携を図り、体調不良時、緊急時には診て頂いております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、地域包括センターに広報を届けるなどで当施設を認知して頂き、何かあった際には協力いただける様に呼び掛けております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者様は本人、ご家族同意の上近隣の協力病院に訪問診療にて診て頂いております。また、御家族様が同行し以前よりのかかりつけ医に受診する方もいます。	殆ど(18人中15人)の利用者が、協力病院による月2回の訪問診療を利用している。入居前からのかかりつけ医の受診は家族が同行しており、その際には介護記録を家族に渡している。連携している訪問看護ステーションの看護師が週1回訪れ、日常の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護による体調確認があり、健康相談、観光管理を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院と連絡を取り合いスムーズに行くように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に看取りを含めた説明をしております。その際にご家族様のご意向等確認しております。状態の変化が見られた際には随時ご家族様にも報告し医師、看護師と対応方法を検討する機会を設けております。	入居時に、重度化や終末期について、看取りを含め家族に説明している。状態に応じ家族、医師、看護師と検討し必要な対応を行なうこととしている。最近看取りの事例は無いが、看取りを経験した職員が在籍しており体制は整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等、当グループないで全事業所にたいして研修会があり参加しております。また、防犯訓練も警察官に協力して頂き皆で研修会をいたしました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2階避難訓練を行っておりますが地域との協力体制は今だ課題部分であります。	年2回、1、2階合同の避難訓練を実施している。近々、消防署立会いの火災想定避難訓練を予定している。これまで、地域の方の参加が無く、推進会議委員の町内会長、民生児童委員に、協力要請の呼び掛けをお願いしている。	夜間想定(昼の時間帯)の訓練を実施しているが、今後は、実際の暗さを体験し、課題の把握と対応を検討されることを期待する。夜間の勤務体制で出来ることから始め、回数を重ねて利用者を避難させたり、職員が訓練計画を立案することも意識づけになると思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を持った対応を心掛けております。羞恥心に配慮した声掛け、また、接遇の研修会もグループ内であり参加しております。	職員は、出退勤時に利用者に挨拶、声掛けしている。年1回接遇の研修を行ない、職員は、親しみの中にも目上の人を尊重する声掛けを心掛けています。不適切な言葉づかいや対応が無いよう管理者が気配りし、必要に応じ助言している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に声掛けを行いご意向を確認できるように努めております。また、表現や理解力に難がある方には選択的な声掛けを行うなど工夫もして対応しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間は決まっているものの、入浴、就寝時には確認を取りご本人様のペースに合った対応を心掛けております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容師にきていただいたり爪切り、髭剃り等整容のお手伝いを心掛けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人様の好みを確認しておりますし季節に合った献立を考えたりと利用者様が食事で楽しんでいただける様に努めております。	朝食は食材の配食サービスを利用し、昼食と夕食は職員が調理し一緒に食事している。昼食と夕食の献立は、利用者の好みにも配慮しながら職員それぞれが1週間分ずつ作成し、組み合わせている。1カ月に1回の利用者2、3人との外食レクは利用者の楽しみの一つである。誕生日には、プレゼントとケーキが用意される。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を記録としてとっており全スタッフの確認できるようにしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食前には口腔体操を行っております。毎食後には口腔ケアをおこない就寝時には義歯洗浄をしております。記録としても取っております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状態をカンファレンスにて確認しなるべく適切な排泄が出来るように支援しております。	排泄チェック表で個々の排泄習慣を把握し、適時トイレに誘導している。便秘にならないよう注意し、排便が1日以上無ければ下剤を服用し、3日で浣腸をしている。車椅子の方もトイレでの排泄を支援している。リハビリパンツ、尿取りパット、おむつ等、個々の機能に合わせた排泄用品を使用し、適切に交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事提供に食物繊維の入ったものを提供したりオリゴ糖入りの飲料やヨーグルトを提供したり、また、適度な運動にも心掛けております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時にはご本人様に確認を取り好きな時間に入れるように努めております。一日おきに入浴支援できるように努めております。	1日おきに入浴できるよう入浴室は毎日準備し、時間帯を限定せずに昼食時間をはさんで週3回、午前、午後に入浴している。入浴を嫌う方は、浴室のトイレに排泄誘導しついでに入浴を勧め、入浴できない場合は、足浴や清拭をしている。異性介助にも配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前にホットミルクを提供し、テレビの音量、正目の明るさ調整などに努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイリングしており内服薬の理解を図っております。薬の変更時にも何が変わったかを送りノートなどに記入し全スタッフで共有できるようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵、唄、踊り等利用者様が個人、集団でも楽しめるような余暇時間を設け生活の張りとしが持てるように努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフの余裕がある際には、庭に出たり、外出できるようにと努めております。季節ごとのお花見、紅葉などドライブにでかける行事もあります。	体調や天候で外出の機会が減少しており、車椅子の方もバルコニーやベランダに出て外気に触れている。毎日、全員でホールを回遊し、歩行訓練している。花見、紅葉など、季節のドライブを実施している。外食も月に1回数人程度で計画されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関してはトラブルになることもあり、申し訳ありませんがご遠慮してもらっております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時にはご家族様にお電話をつなげたり、しております。手紙のやり取りはございませんが年賀状を書いてもらったりしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じれるような装飾物や行事写真をはったり、温度計を各居室につけて気温になるように努めております。	1、2階ともほぼ同じ構造で、2階の共用ホールは、柱が無いのでより広く感じる。採光、温度、湿度が適切に管理されている。テレビ、食卓、ソファが配置され、個々の居場所で寛いでいる。季節に合わせ、正月、七夕、お月見、クリスマスの飾りつけをしている。まもなくスキをと考えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にはテーブル、ソファを並べ気の合う方々が談笑できるスペースを用意しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご説明しなるべく使い慣れたものを持参して頂いております。写真やご自分で書いたものを貼ったりしております。	居室には、クーラー、パネルヒーター、クローゼット、洗面台が備え付けられている。温度計も設置され、居心地の良い室内環境を維持している。寝具、衣装ケース、小物入れ等の使い慣れたものを持ち込んでおり、写真や絵も飾っている。テレビの持ち込みも自由だが、設置者は少ない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー建築でありなるべくご自分で歩ける、移動できる、また、御自分で動けるように廊下、トイレ、浴室に手すりもついております。		